

問題【国語】

問1 次の(1)～(3)の各俳句から秋の季語を抜き出しましょう。

- (1)名月や 池をめぐりて 夜もすがら(松尾芭蕉)
(2)柿くえば 鐘が鳴るなり 法隆寺(正岡子規)
(3)秋深き 隣は何を する人ぞ(松尾芭蕉)

問2 以下の詩は、ある有名な俳句を英訳したものです。元の俳句を考えましょう。

pond frog plop!

(ヒント)pond=池、frog=カエル、plop=ポチャン(水に落ちる時の擬音語)

豆知識 雑学コラム

世界に広がる「Haiku」

今日のテーマは「俳句」です。俳句は「五・七・五」のリズムで、季節を表す言葉(季語)を用いて、その時々情景や心情を詠む日本生まれの詩です。俳句文化の生みの親といえる人物が江戸時代の俳人、松尾芭蕉です。彼が東北地方や北陸地方を、俳句を詠みながら旅をしたときに執筆した「奥の細道」は有名ですね。「奥の細道」は大垣を旅の終わりの地にしていて、岐阜ともゆかりのある文学作品の一つです。現在、大垣市には「奥の細道むすびの地記念館」があり、芭蕉の功績について学ぶことができます。ぜひ、一度足を運んでみてくださいね。



さて、俳句はいまや世界に「Haiku」として知られる日本を代表する文化になってきています。ただし、「5・7・5」の音のリズムが作りづらい、また四季がないため「季語」にあたる言葉がないなど、俳句を他の国の言葉に詠むときに日本の「俳句」と同じルールで俳句を詠むことはとても難しいのです。そのため、多くの国の「Haiku」では「3行に区切れてあり、自然について詠んでいる詩」と定義されて、世界には日本の「俳句」と違った工夫をいろいろな面白い「Haiku」が生まれています。



問2の詩はイギリスの文学者のJames Kirkupが翻訳した「古池や蛙飛びこむ水の音」の英訳です。一語一語を忠実に訳した逐語訳ではないですが、声に出してみると「pond(ポンド)」「frog(フロッグ)」「plop(プロップ)」と三つの言葉全てが、カエルが飛び込む時の音を描写していて、カエルが池に飛び込む様子が連想できる面白い俳句になっていると思いませんか。皆さんも日本語の「俳句」と英語の「Haiku」両方を創作して、充実した「芸術の秋」を過ごしてはいかがでしょうか。

【解答】

(1)名月(1) 池(2) 夜も(1) 2 目
(2) 柿(2) 鐘(1) 法隆寺(1) 1 目
(3) 秋深き(3) 隣(1) する(1) 1 目